

一般質問



工藤 秀子 議員



録画映像

質問1 二次元コードシール配布事業の今後の活用方法は

市長 地域で認知症高齢者を見守る仕組みの一つとして普及する

問 北斗市では、今年度から新規で高齢者見守り確認事業の中で、高齢者見守り確認機器購入費補助金及び二次元コードシールの配布事業を始めました。

事業の利用状況及び今後の活用方法をお知らせください。

答(市長) この事業は、高齢者及び認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らしていることを目的で取り組んでおり、利用状況は、11月末現在で「高齢者見守り確認機器の購入に対する助成」の件数は0件、「認知症高齢者等の見守り二次元コードシールの配布」の件数は7件となっております。

今後の活用方法としては、本事業を通して、認知症に関する正しい認識と理解の向上を図り、地域における認知症高齢者を見守る仕組みの一つとして、その普及啓発に活用してまいります。

まずは、ホームページや広報紙などを活用して、積極的に事業の周知を図るとともに、定期的に見守り声掛け訓練等を

開催し、多くの市民に参加していただくことで、高齢者を地域で見守る仕組みを知ってもらうことが必要と考えています。

問 まちで二次元コードシールを貼付した方が様子に気になる場合の対処方法を市民へ周知したほうが良いと思うがいかか。

答(保健福祉課長) シールを貼付し様子が気になる場合でも、まずは、声掛けをすることが一番の対処方法だと思いますので、今後は、市民へ何度も認知症高齢者への見守り声掛け訓練等を実施しなければならぬと考えています。



認知症高齢者等の見守り二次元コードシール

質問2 今後の芸術文化活動の振興の方向性は

教育長 市民主体の活動を市としても後押しすることで振興を図る

問 北斗市は、第2次総合計画令和4年度実施計画の中で、芸術文化行事開催度実施計画の中で、芸術文化行事開催度実施計画ひらばや音楽祭を通して、「音楽のまち・ほくと」の市民意識の醸成を図るとともに、かなでくるを拠点とし、吹

奏楽や合唱のみならず幅広いジャンルの音楽振興事業を検討するとあります。

吹奏楽や太鼓、合唱などは、文化祭や音楽祭、また、いろいろなイベントにも参加し、演奏で地域を盛り上げています。ただ、一部の市民の中にはこの「音楽のまち・ほくと」の活動ばかりに力を入れてはいないか、その他の歴史文化などの活動にも力を入れてはどうかとの話がありました。

今後の芸術文化活動の振興の方向性をお知らせください。

答(教育長) 本市では、シテイプロモーションを市民総ぐるみで展開しており、特に、市内において活動が盛んな、音楽に関する取り組みは、「音楽のまち・ほくと」と銘を打ち、全国大会において、連続金賞を受賞する上磯中学校吹奏楽部のドキュメンタリー番組制作や、北斗市出身の奏者の方にイベントで演奏してもらうなど、様々な機会を活用し、音楽を通して北斗市をPRしてきました。

一方、音楽以外の芸術文化活動については、かなでくる協会や文化団体協議会と連携し、演劇公演の開催や市民文化祭の実施など、芸術文化活動を発表する様々な場を設け、鑑賞機会の確保にも努めてきたところです。

今後の芸術文化活動の振興の方向性については、引き続き、多くの方々

の芸術文化活動に触れる機会を確保し、この活動を支える人材の育成やサポートに努めるとともに、これらの活動について、理解を深めていただけるよう、積極的に広報誌やホームページなどを活用した情報発信を図ってまいります。

また、市民の皆さまが主体となって行っている芸術文化活動も広がりを見せつつありますので、市としてもその活動を後押しすることで、芸術文化活動の振興を図ってまいります。

問 北斗市は、郷土資料館もあり歴史文化として史跡や縄文時代の史料もあるのが高齢者大学のカリキュラムで学芸員などを招いて勉強することは可能なのか。

答(社会教育課長) 高齢者大学では1コマ必ず歴史に関する講座を行っています。市民の中で北斗市歴史研究会が発足し、小学校や高齢者大学の講師をすることも活動内容で考えているようですので、今後、連携して進めてまいります。



北斗市指定無形民俗文化財「大野ぎおんばやし」